NPO/ SORUCA 通信 梅雨 2016
NonProfit Organization/Soft Resouces of Urban and Country Association

会員　各位殿

平成28年6月29日

ＮＰＯソフトインダストリー研究会
理事長　白石　嘉宏

巻頭言

手抜きではありません、「SORUCA通信2013春」再掲します。

　みなさん、ソフトインダストリー研究会で検索していただくと、当会のホームページが出ます、初めのページの左側に会報のリストがあります。 今回の巻頭言はそのリストの一番初めの巻頭言を再掲しました。　逐次、順を追って巻頭言だけでも見てください。当たり前のこと。それが欲に目が、3本の矢とは何ですか。

大丈夫かしら?

　アベノミックスは強い経済力を持つ日本を目指しています。でも本当に強くなるのでしょうか？　また私達の所得は増えるのでしょうか？
　確かに円安に向かい輸出企業は収益を上方修正しました。金融緩和、大型の財政投資が約束され株価も上昇しました。先の太平洋戦争ではエネルギーの基となる石油の確保が求められて戦争に突入しました。今の時代戦争には突入しませんが、エネルギーを基とする経済戦争は日常行われ続けています。円安による影響は人々の日々の生活、先ずエネルギー価格の上昇から直撃し始めました。電気料金の上昇、ガソリン・灯油価格の上昇です。今日電気なしには生活できません、テレビもパソコンも冷蔵庫も洗濯機も、電車もトラック物流輸送も・・・・・。もう一つ生きて行く上で無ければならない食料品も価格の上昇に見舞われています。ほとんど全てを輸入に頼っている小麦は1割近い価格上昇になります。飼料穀物もほとんど全量輸入ですから、物価の優等生といわれている卵を始め国内生産の全ての畜産物価格が上がらざるを得ません。もちろん石油が上がっているのですから、これからはハウス栽培の農産物価格も上昇します。パンも麺も卵もお肉も乳製品も野菜も日々口にする全てが価格上昇することになります。

　経済と言っても、企業とそこで働く人々とが同じ方向に向かうとは限りません、いや、それどころかこれからは企業収益を上げると言うことは賃金が抑制される、減額される可能性があります。デフレは確かに企業収益を落としましたが、これは2つの生産過剰が有るからです。供給力が消費量を上回っているからです。一つはもちろん国内競合に因る価格下落です家電量販店の価格競争は苛烈です、またインターネットに依る商品情報の豊富さ中間マージンを伴わない販売方式による価格競合もあります。
　もう一つは全世界規模での競合です。円より下の銭の単位まで切り込む原価競争、そうして少しでも安い物をつくる、そのためには安い人件費を求めて投資を行わざるを得ない企業の宿命です。日中関係が厳しくなる前から、中国の人件費の上昇は企業収益を圧迫して来ていました。もっと安価に製品を作るには別の国を探さねばならない、民度が高くそれで居て安い人件費の国に生産拠点を移す。そうすることで競合力を保持することになります。企業がとらねば成らない行動は国内での雇用はもとより現状の人件費の上昇も抑制しなければ海外との競合には勝てません。

　アベノミックスでは、先ずは企業収益が上がりその2年後ぐらいに賃金が上昇するというシナリオになっています。しかし、その2年間の間、上昇する税金と社会保障、全ての物価が上昇する中で国民は暮らさなければ成りません。当然爪に火をともすような生活を強いられます。消費はさらに落ち込み、その落ち込みをカバーするために更なる価格競合となり、企業収益を悪化させ倒産する企業もでてくることもあるでしょう。
アベノミックスは本当に大丈夫なのでしょうか？

SORUCA 通信　contents

■手抜きではありません
■易不易
■事業報告と収支報告
■白石回想録―6

「易不易」

もう何年も買ったことのなかった週刊誌を買った。 週刊文春の舛添要一都知事特集の第二弾であった。 これでとどめになる内容かと思ったら、そうでもなかった。
今や問題点は政治資金規正法の違法性から、人としての道義性,倫理性となっている。
しかしなんとしても辞任しようとしない知事に対しては、憤懣やる方ない。
「今だけ、金だけ」の軽薄な輩より、より深刻で、悪質な精神的影響を与える。

舛添問題の深刻な点は変えてはならない、人としての生きる道、倫理は変化していいと堂々と体現していることにある。嘘も方便。 法に抵触しないならどんなことも許される。 金を返せば文句ないだろう。 世も末と嘆いてばかりでは、暗黒の雲が東京都だけでなく日本中を覆ってくる。 変えてはならないことを「不易」と言う。 事業にあっては「創業の理念」であり、家庭にあっては親子、長幼の縦の尊敬と慈愛の姿である。

そしてもっと問題なのは、環境の変化や時代の流れの変化に対応して、変えてゆかなければならない決まりや行動方針をあたかも変えてはいけないものとしていることである。 「易不易」を取り違えてしまっている。 その悲惨な結末は多くの企業の屍の姿を見ているし、太平洋戦争における陸海軍のリーダー達の現実逃避の姿である。 しかし役所はまず倒産しない。 だから環境の変化に対応しなくても生き残れる。
常に仕事の進め方は前例踏襲である。変化をしてはならないのです。

時代が大きく変化すれば人々は将来に対する不安を増大させ、救いを求める。
アメリカにおけるトランプ現象はメキシコ人が急速に増え、白人優位が崩れることへの不安が根底にあります。 ヨーロッパも移民問題が経済を圧迫している。日本も経済格差が拡大し、雇用不安が生じ、少子化対策が打てなければ、人々の憤懣と救いの先はトランプ現象と同じようにより過激になってくる。 舛添問題が人々のガス抜きとなり、道義、倫理を考えるいい機会となればと思う。 この機会に、「易不易」について人間の易不易、祖孫の易不易、民族の易不易について考えてみたい。そして「不易流行」の気づきに触れ、思索を深めたい。

見たこと、したこと」白石回想録―6

前回は高校までを紹介しました。前号の終わりにその頃までの東京を紹介しますと予告したので今回は昭和 35 年（1960 年）前後まで様子です。

始めの 1 回目 2 回目で戦争から戦後そうして疎開先の我孫子から東京に戻り鮮明に残っていた記憶、荷馬車、木炭車のバス、一面の焼け野原、飯田橋から四谷までの外堀が近所の人の釣り場になりお堀の鯉や鮒が貴重な蛋白源となって皆の健康に貢献したことを書きました。本当に国会義堂の前や日比谷公園の一部が畑になっていたなどと言うことはその後に東京に住むことになった人には信じられないでしょう。さて、そのような東京は朝鮮戦争を契機として急速な復興が始まります。

テレビが出る前の時代は映画の世界です。年配の方なら一度は見たことがあるでしょう。東宝映画の社長シリーズが昭和 27 年から始まります、森繁、三木のり平が出るコミカルな映画です。戦争で財閥解体、戦前のリーダー達が公職追放されたのでトップの人が居なくなり２流３流の人が社長になるという時代背景を上手く描写した作品です。会社のトップの活躍？　その翌年にはテレビの放映が始まり街頭テレビではプロレスの力道山が登場しバッタバッタお外人レスラーを倒すのを見るために大勢の人が群がりました、飲食店や喫茶店はこぞってテレビを置き、その日の番組を店の外に張り出しお客を呼び込む作戦に出ていました。戦争体験を笑いに変えた二等兵物語シリーズ、さらに昭和３６年（1961 年）にはスーダラ節が流行りその翌年には無責任シリーズの映画が始まります。ここでは社長ではなくサラリーマンが主役になりました。時代はお茶の間で見るテレビに合わせて主役が庶民へと移って行きました。このような時代の中で我が家には早くからテレビがあったので近所の人が夜になるとこちらが夕食中でも勝手に庭から入ってきて見たい番組をリクエストする。どうやって調べたのか、いつの間にか家の電話番号に近所の人宛の電話が掛かってきてその人に電話が掛かってきたことを知らせに走るようになってしまいました。　スマホ・ガラケー時代の今とは大違いです。

私はこの時代、上記の映画はもちろん、洋画もほとんど毎週見に行きました。有楽町日比谷には家から自転車です。前を走るトラックを追いかけ、荷台に手を伸ばしてつかまり自転車をこがずに街を駆け抜けていました。洋画は西部劇、活劇もの、それに綺麗な女優が出る、ヌードが期待できるものを狙って観に行きました。

ある日、芳町で一番の踊り手で生前父が贔屓にしていたと言う芸者がやってきました。この思い出シリーズの最初の方に書きましたが、父は本当に大金持ちだったので、芳町･柳橋で主に遊んでいたそうです。毎年正月になると女将が着飾った芸者

を大勢連れて挨拶に来たそうで、母は父の浮気相手が 1 人や 2 人なら嫉妬心も沸くがもう何十人かになると如何でも良くなるし、祭り上げられてそれなりの度量を示さざるを得なくなると話して居ました。そんな芸者たちも戦争中は営業自粛になり、お座敷に出ることも無くなりました。そこで父は花街の芸者たちを自分の会社の工員として働いてもらうことにしたそうです。このことは一石二鳥になったそうです。芸者には感謝され、会社に来る将校には働いている芸者を急遽芸者に仕立てなおし酒食の接待要員に換えることで将校連中は大満足で引き揚げて行き、おかげで仕事はスムーズに運んでいたそうです。

　さて、その芸者が来た時に珍しく母の方から映画に行ってきなさいといわれて普段より大目のお小遣いをもらいました。当時は日比谷近辺でのロードショーを除くと最低でも 2 本立て、中には 5 本立てなどというのもありました。
3 本立ての映画だったと思いますが、観終わって帰宅すると私の部屋に入ることを禁止されました。私が映画を見ているうちに芸者が子供を産んでいたのです。
もちろん父はその 6 年も前に亡くなっていますから我が家との血の繋がりは全くありません。父の生前、母は大変だったろうと思いました。

　祖母は食道がんでした、父はクルマと医者と弁護士は選んでおけ、といっていたそうでお医者さんは医学生時代から面倒を見ていた人が後に御茶ノ水の杏雲堂病院の院長になった人ですがその人が通いで我が家に来て寝ている祖母を診てくれていました。
祖母は正月松の内（1 日から 7 日）に死ぬと回りに迷惑を掛けるから、と言い、8 日に息を引き取りました。母は女と生まれて 80 を超えて生きていたくない、と言っていましたが 80 歳の誕生日を迎える 3 日前に亡くなりました。

　もう一つ、思い出としては東京タワーまで歩いて行こうと友人に誘われて、目白の学校から芝の東京タワーに向かったことです。今と違い当時は道が開けたところから東京タワーが見えるので地図が無くても迷うことはありません。
工事中ですが下の方なら階段を登ることを許可してくれるとのことでした。
映画「オールウエイズ三丁目の夕日」が当時の風景です。
次回は大学時代に入ります。

＜編集後記＞

関東地方も梅雨入りになった。季節の移ろいは、いつの間にと手品を見るようだ。
今日は松戸の本土寺に紫陽花を見に行ってきた。
花菖蒲は終わりに近かったが、一万株の紫陽花は堪能した。 ７月１０日はお伊勢参りである。
８月には今年こそホタルを見に行こう。
今年は妻の言うとおり、逆らわらずにすべて従うことになっている。 （渡辺勝範）

SORUCA のホームページの画面です。 http://sorca.p2.weblife.me/

「特定非営利活動法人ソフトインダストリー研究会」広報誌
SORUCA 通信 (2016年梅雨号)

発行責任者　白石　嘉宏
発　行　所　NPO ソフトインダストリー研究会
東京都新宿区矢来町 47 番地
TEL: 03-3266-1769
FAX: 03-3266-1764
http://sorca.p2.weblife.me/
編　集　人　渡辺　勝範・長谷川　毅
発　行　日　2016年6月29日

NPO/ SORUCA
NonProfit Organization/Soft Resouces of Urban and Country Association
発行元 :NPO ソフトインダストリー研究会